

栃木に、帰省しました。



もう3カ月前になってしまいましたが、夏休みを頂き、栃木の実家へ帰ってまいりました。左の写真は、栃木のあある農家さんが分娩への緊張感を忘れないためにと牛舎の入り口にデカデカと（120cm×80cmくらい）吊り下げている標語(?)です。

予定では僕が THMS にいられるのもあと約1年と数か月を残すのみとなりました。覚えておられる方がいたら嬉しいですが、栃木の実家の動物病院を後継するために北海道に修行に来ているという自己紹介を書いたのももう、2年前のマネージメント情報でした。

栃木というと乳牛では那須高原が有名ですが、実家の辺りは那須よりも南に下った平地の田園地帯です。栃木は意外と、乳牛の飼養頭数は北海道から遠く離されつつも第二位（平成25年度農水省統計）であることを僕は北海道に来てから知り、驚きました。また肉牛の飼養頭数も多く、全国第五位（同統計）を誇り、今後は乳牛は減りつつ肉牛は微増していくのではないかと思います。



【繁殖は手間】

父の仕事について農家さんを回る中で印象的だったのは、【繁殖は手間】と何度も言っていたことです。「繁殖は手間をかければ応えてくれるから、何度でも呼んで」と農家さんに説き、毎日でも通い、繁殖への手間を惜しまないことを大切にしていました。

実家の業務内容は人工授精がかなりを占め、その人工授精の際に他の繁殖障害を診ることが多いようです。基本的に人工授精は1軒1日1回で、排卵確認を行っていました。加えて一般診療はケトosisや第四胃変位、群での肺炎などで、乳房炎は非常に少ない印象でした。

またお客さんの、乳牛と肉牛の割合では6割以上が和牛（繁殖農家、肥育農家、あるいは一貫）、酪農は4割以下でした。酪農農家にしても規模は搾乳頭数20~50頭程度のつなぎあるいはパドック放牧で、70頭いればは大きい方です。フリーストール牛舎はごく一部でした。

←仔牛が隣の哺乳を邪魔しないための仕切りを、掃除もしやすいように可動式にしたもの。素晴らしいアイデア！





印象深かったのは、農家も獣医も高齢化が進む中で 20代 30 代の若手の後継農家さんたちがいて、同じく若い獣医として僕が地元に戻ってくるということに大きく期待してくれているということでした。それぞれに不安や希望を抱き、そして後継者として背負うものや、養う家族がいて、獣医はその営みすべてを一緒に抱えていく仕事なのだと感じて、正直なところ少し怖じ気づくような気持ちになりました。僕の甥っ子と同年の赤ん坊を抱えた若手農家さん夫婦とお話をして、僕も一緒にこの可愛らしい娘さんを、

図々しくも一緒に抱えていくようなイメージが浮かんだのです。しかも、会社組織としてじゃなく、自営業として。「今更気付いたのか！」と檄を飛ばされてしまいそうですが、今までの甘い認識から抜け出して、残された時間を精進したいと思います。改めまして、よろしくお願ひ致します。



巷でウワサの。。。

別海ラブストーリー

って？



先日の明日香先生の結婚披露宴で上映された噂の短編映画【別海ラブストーリー】について、「もう一度観たい！」「見れなかった人に見せたい！」という声をたくさん頂いております。あのムービーは、われわれトータルハードの若手役者の総力を結集し、超人的な助っ人の編集技術によって奇跡的に完成した作品です。もしかしたら DVD として貸し出せる日が来るかも？来ないかも？今のところ断言できませんが、われわれの肖像権など考慮しながら検討させていただきます。

最後に、一つ理解して頂きたいことは、ひな壇での前振りから、上映して、歌って花束を渡すまでが“ひとつなぎの作品（プレゼント）”であったということです！！



地蔵（てらうち）